

活動作りのポイント

- 幼児一人一人が安全な生活をしていくためには、「どんなことに気を付けるのか」「どうして気を付けた方が良いのか」など、安全に対する意識の育みが大切だと考える。園外へ出かける機会を活用し、事故や怪我をすることなく安全に行き来するために必要な事柄を幼児主体で考える機会を作る。そのことで、幼児が安全に対する意識やルールを守る必要感を学ばせる。

単元（題材）について

1 題材名 「園外保育を通して、地域の場に親しみをもとう」

2 目標

I-4 地域や社会生活での安全

地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、安全に行動できるようにするとともに、安全・安心なまちづくりを目指す。

3 教材化の視点

本園の周辺地域は高層マンションの急増により新たにこの地域へ住み始めた家庭が増え、地域との関わりや所属意識があまり高くない。道路状況としては、国道には大型車が多く通り、歩道が狭い。そこで、幼児が小学生になったときに一人で安全に登下校や生活をするための一つには、幼児自身が生活している地域に親しみをもつことが必要だと考えた。そこで、園外に出かける機会を年間で複数回計画し、実際に歩きながら地域の特徴や交通ルールを守る必要性などを実感できるように継続して取り組むこととした。

4 これまでの取組と幼児の変容

1 学期には、園の近くにある公園へ出かける事前と事後に「どうやったら安全に出掛けられるか」という視点で一人一人の考えを出し合い、様々なことに気を付ける大切さを学んできた。公園に出掛ける際には、可能な限り同じ道を使うようにしたことで、2 学期に入ると、道の状況や周囲にある物や横断歩道・信号の場所などを幼児が気付くようになった。9 月には教師の指示だけでなく、幼児自身が周りの状況から「前から自転車が来ている」「道が狭くなっている」など、そのときの安全な歩き方を判断する姿が少しずつ見られるようになった。

年間計画

時期	内容（行先）	◎安全教育の視点に立った幼児のねらい
5 月	親子遠足（区民公園） 地域探検（区民公園）	◎地域に遊べる公園があることを知り、親子で遊ぶ。 ◎安全のために交通ルールがあることを知る。
6 月	地域探検（区民公園）	◎交通量や車の速さに関心を持ち、危険があることを知る。 ◎道中の建物や置物など、地域には様々なものがあることに気付く。
9 月	地域探検（区民公園）	◎歩道や道路の状況に合わせてどのように歩いたら良いかが分かり、行動しようとする。 ◎道端にあるものや季節による植物や掲示物の変化など、地域のことで気付いたことを教師や友達と伝え合う。
11 月	遠足（地域の水族館）	◎自分たちが考えた約束事が学級の約束事になることが分かり、自己有能感をもつ。 ◎安全に歩行するために必要なことを考えたり教師の指示を聞いたりして行動する。

11月	遠足（地域の遊園地）	◎年少児と一緒に行くことを楽しみ、安全に歩行できるように考えたり年少児に言葉を掛けたりする。
1月 （本時）	地域探検（区民公園）	◎公園へ行くときに気を付けた方が良い場所や道、交通量のことなどが分かる。 ◎安全に歩行するために必要なことを考えたり教師の指示を聞いたりして行動する。
2月	遠足（地域の動物園）	◎年少児と一緒に行くことを楽しみ、安全に歩行できるように考えたり年少児に言葉を掛けたりする。

指導事例（1時間／1月）


1 ねらい

- ・公園へ行くときに気を付けた方が良い場所や道、交通量のことなどが分かり、どのように行動したら良いかを考える。
- ・教師や友達の考えを聞き、安全に過ごすために必要な行動がたくさんあることを知る。

2 ポイント

- ・安全に歩行するための約束事を幼児が具体的に考えられるように、掲示物を活用して、幼児がこれまでの実体験を踏まえながら考えられるようにする。
- ・具体的に何をどのように気を付ければ良いのかが分かるように教師が言葉を補いながら伝える。

3 指導の実際

○活動の流れ	◎教師の援助 ・環境設定
○学級で集まり、公園に遊びに行くことについて教師の話聞く。	◎公園へ遊びに行くことをあらかじめ伝えておき、翌日に出掛けることについて幼児が期待感をもてるようにする。 ・どの公園に行くのかが分かり、道のりや遊具をイメージできるよう、掲示物を貼っておく。
○教師の問い掛けを聞き、安全に出かけるために必要な行動を考え、意見を出し合う。 	◎自転車や車、通行人など、事故につながりそうな状況がイメージできる言葉を掛け、幼児が安全を意識した行動を考えられるようにする。 ・極端に細い道や大きな交差点などの写真が入った地図を提示し、危険につながりそうな道をイメージできるようにする。 ◎幼児が自信をもって自分の考えを言えるように、言葉の区切りまで聞いたり、上手く言葉にならないときには幼児の思いに沿えるような言葉を補ったりしながら、一人一人の考えや意見を受け止める。 ◎幼児が考えた約束に対して、具体的な状況が思い描けるような言葉を補う。 ◎これまでの園外保育での姿や普段の生活の中で約束やルールを守っている姿の話をし、褒め、自信につなげる。それにより、幼児が進んで約束事を守って行動できるようにする。
○約束事や気を付けることを学級全体で決め、共有する。	◎出し合った考えを教師が幼児と共に整理し、学級全体の約束として幼児と確認し、共有する。
■評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・公園へ行くときに気を付けた方が良い場所や道、交通量のことなどが分かり、どのように行動したら良いかを考えることができる。 ・自分の考えを話したり、教師や友達の考えを聞いたりしながら、安全に過ごすために必要な行動について理解できる。 	

園児の変容

- ・状況や場面をイメージしながら気を付けることを考えたことで、とるべき行動を具体的に考えて発言していた。園外保育を楽しみにする姿につながった。